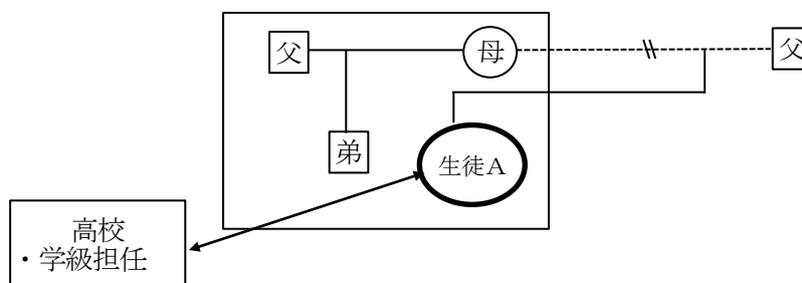
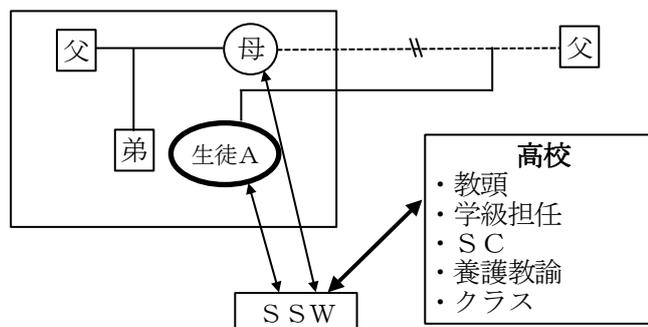


不登校傾向の生徒の家庭とクラスを支援したケース

【 S S Wの支援前】



【 S S Wの支援後】



1 気になる状況

- 生徒Aは、朝起きることができず、朝起きられないとそのまま欠席することが多く、欠席が多くなっていった。
- 生徒Aは、服装などの校則に関する教員の指導に納得せず、指導の際、反発することが多く、学校を休みがちであった。
- 生徒Aは、休日にアルバイトをしており、その収入を家の費用に当てたり、家族旅行の費用にしたりしていた。
- 生徒Aは、教師に反発することが多いが、特定のクラスメートの落ち度を攻撃することも多く、言い争いになることがあった。
- 生徒Aのクラスは、クラスメート同士の人間関係が悪く、女子生徒はいくつものグループに分かれて、他のグループを非難し合っていた。
- 生徒Aのクラスは、担任の指導が入りにくく、生徒同士の不満がたまっており、学校生活に意義を見いだせず、休みがちな生徒が数人出てきた。

2 アセスメント

(1) 基本情報

- 生徒Aは、母親、その再婚相手の父親、弟と生徒Aの4人家族である。
- 生徒Aは、中学校在学中、学年が進むにつれて、不登校傾向が強くなったが、学校が

【 高等学校① 】

班編制に配慮し登校を促して登校できると、その後、登校できるようになっていた。

- 生徒Aは、容姿にコンプレックスがあることから、おしゃれに関心が高く、化粧をしたり、改造した制服を着たりしている。
- 父親は、子育てにはあまり関与していない様子である。
- 母親は、生徒Aの登下校の送迎をしたり、欠席の際、学校に連絡したりするなど協力的であるが、学級担任のクラス経営に不満をもっていた。

(2) 学校との情報共有の状況

- S S Wは、教頭との面談や電話を通して情報の共有化を図っている。

3 ケース会議の状況

- 目的：生徒Aとクラスについての情報の整理と共有、生徒Aとクラス経営の方向性の検討
- 参加者：教頭、学級担任、S S W
- 内容：家族の状況に係る情報の共有、各関係機関の支援方法の確認

4 プランニング

- 高等学校
 - ・学校は、生徒Aと共感的な関わりを増やすことで、生徒Aが全て納得していなくても関係性を維持する関係の在り方について教え、心理的な安定を図る。
 - ・学級担任は、ケース会議の支援に基づき、授業の進め方や学級経営の在り方について、改善する。
 - ・学級担任は、当該児童の学校生活の様子について、母親に継続的に伝えることにより、信頼関係を醸成する。
 - ・校内ケース会議（教頭、学級担任、特別支援教育コーディネーター）で情報を共有するとともに、支援計画を作成し、支援を行う。
- S S W
 - ・生徒A及び複数の不登校傾向の生徒と面談し、クラスの人間関係について情報収集し、担任などと情報共有し、アセスメントに役立てる。
 - ・母親と面談し、母親の生徒Aや学校の思いを聞き取るとともに、生徒Aの安定した学校生活の構築のために協力を依頼する。
 - ・学校と情報の共有化を図り、具体的なクラス経営、生徒の支援方法を検討する。
 - ・ケース会議を実施し、各担当の役割と支援の在り方を確認する。

5 社会資源の活用状況

- スクールカウンセラーの再度の活用を検討する。

6 当該生徒の変容（成果と課題）

<成果>

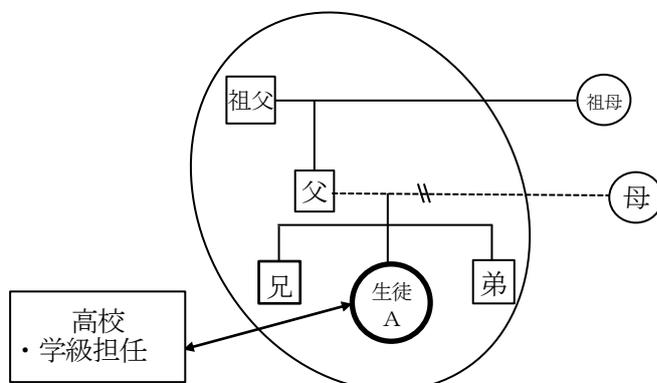
- 生徒Aは、学校が組織的に支援したことにより、登校できるようになり、通常の学校生活を送ることができた。
- 生徒Aの支援計画をつくり、学校の体制が整ったことにより、対応のブレがなくなり、生徒Aと教員との関係性が良好となり、生徒Aの学習への意欲が向上した。

<課題>

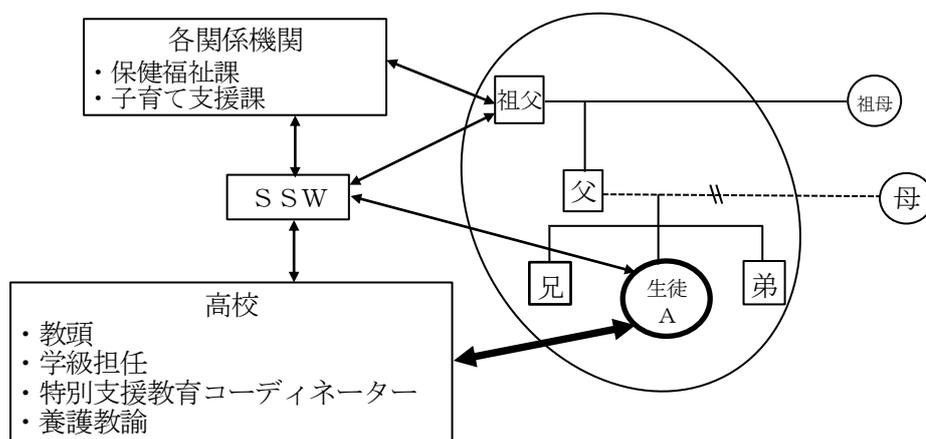
- 引き続き、生徒Aだけではなく、生徒全員が認められる場所となるよう、学年、学校としての支援が必要である。
- 今後も、生徒Aの困り感に対応できる関係を維持する必要がある。

欠席しがちな生徒の養育環境の改善を図ったケース

【SSWの支援前】



【SSWの支援後】



1 気になる状況

- 生徒Aは、家庭で入学時に必要な準備をするための経費を用意できなかったことから、入学式以降しばらく欠席が続いた。
- 生徒Aは、学校生活におけるトラブルはないが、高等学校入学者選抜の学力検査の点数が低かったことから、高校の学習についていくことができるか、心配されていた。
- 生徒Aは、これまでの生育歴から、現在の環境を疑問に感じるものがなく、困り感も感じていない。
- 生徒Aは、学校生活や家庭生活に困り感も感じていないが、学校から見ると、今後の高校生活の継続に当たって不安要素が多くあることが考えられていた。

2 アセスメント

(1) 基本情報

- 生徒Aの家族構成は、父方の祖父、父親、兄、弟、生徒Aの5人で居住している。
- 実父母は離婚し、父方の祖父が、子どもたちの養父として一緒に生活している。
- 生徒Aは、中学校に在学中、欠席は少なく、生活上問題となる行動などはなかった。
- 父親と養父は、体調が悪く、働くことができない状況ではない。祖父は、高齢であり体調が悪くなると入院することが多くなった。

【高等学校②】

- 兄は、札幌市内の高校に通い、アルバイトをして、自分の生活費をまかなっている。
- 弟は、小学校第5学年で、学校生活上、特に問題はない。

(2) 学校との情報共有の状況

- S S Wは、教頭との面談や電話を通して情報の共有化を図っている。

3 ケース会議の状況

- 第1回
 - ・目的：生徒Aについての情報共有、生徒Aへの支援の方針の検討
 - ・参加者：教頭、学級担任、S S W
 - ・内容：家族の状況に係る情報の共有、各関係機関の支援方法の確認、生徒Aの学校の指導助言内容の確認、S S W
- 第2回
 - ・目的：生徒Aについての情報共有、生徒Aへの支援の方針の検討
- 内容：家族の状況に係る情報の共有、各関係機関の支援方法の確認、保護者の養育に対する助言内容の確認

4 プランニング

- 高等学校
 - ・学級担任は、生徒Aと面談し、学習や家庭での不安に感じている生活状況を聞き取り、本人の現状についての考えを把握する。
 - ・生活の困窮状況の回復や、進路目標の実現に向け、奨学金制度について情報提供し、奨学金の利用を促す。
 - ・校内ケース会議（教頭、学級担任、特別支援教育コーディネーター、養護教諭）で情報を共有するとともに、支援計画を作成し、保護者の理解の下、支援を行う。
 - ・学級担任は、当該児童の学校生活の様子を保護者に丁寧に伝えるとともに、奨学金制度の利用について保護者に検討を促す。
- S S W
 - ・祖父に貸付制度などの利用を促す。
 - ・学校と情報の共有化を図り、具体的な支援方法を検討する。
 - ・ケース会議を実施し、各関係機関の役割と支援の在り方を確認する。
 - ・祖父、父親等様々な面談場面を設定し、保護者の悩みや不安を聞き取り、養育に対する助言を行う。

5 社会資源の活用状況

- 保健福祉課は、S S Wと情報の共有化を図り、保護者支援に努める。
- 子育て支援課職員は、S S Wと連携した対応を図る。
- S S Wは、学校との連携を密にするケース会議を実施し、支援策を検討する。

6 当該生徒の変容（成果と課題）

<成果>

- 生徒Aは、奨学金で学校に関わる費用をまかなえるようになり、費用のことで欠席することはなくなった。
- 生徒Aは、校内ケース会議の支援計画に基づいた支援により、学習面での不安も少なくなり、落ち着いた学校生活を送るようになった。
- 祖父が介護保険を活用するようになり、生徒Aの家庭での負担が軽減された。

<課題>

- 生徒Aの進級に従い、進路に関する新たな課題が予想されることから、保護者への支援を今後も継続する必要がある。